

「お金」を面白いほど引き寄せる黄金ルール

30. “愛”はお金を生かすための羅針盤

あなたが世の中の人に支払わなければならないのは、金銭ではなく「愛」です。

貧しかったときにはやさしくて思いやりのあった人が、成功してお金持ちになると、やさしさも思いやりもなくなってしまうことがあります。

そういう人の成功は長続きしません。なぜなら人が最終的に求めるのは愛だからです。よく女性は「愛の証がほしい」といった言い方をします。その証がお金であったとしたら、そのお金は愛を示す道具に使われたのです。

つまりお金は手段であって決して目的にはなりえないものです。

ところがお金を持つと、お金の威力に酔って、愛の大切さを忘れてしまうのです。どんなことをするにも、根底には「愛がなければ効果は台無し」ということを忘れてはいけません。

たとえば、お金のある人が慈善事業に寄付するとします。そのとき「くれてやる」というような態度だったら、決して感謝されないでしょう。お金は受け取ってもらえるでしょうが、お金を出した上に軽蔑されてしまうかも知れません。まず愛があって初めて寄付という行為が生きてくるのです。

ヨーロッパの貴族は昔から慈善活動を活発に行ないました。しかし、その本音は自己満足と保険でした。保険の意味は、自分たちの身分を守るために、民衆を懐柔したということです。

全部が全部そうだったわけではありませんが、そういう意味合いが大きかったのです。だから、いつまでも通用せず、結局は貴族のほうで没落しました。根っここのところで愛に欠けていることを見抜かれたからです。

お金を受け取る側にも同じようなことが言えます。

受け取る権利があつたとしても、ただ権利として受け取るだけでなく、愛と感謝をもって受け取らなければ、決してよい結果にはなりません。他人を愛し自分を愛することは、この世で最も高い美德であり、それなくして豊かな性活はないということです。
